

## 中学校 地理的分野 学習指導案（新学習指導要領版）

小単元：中国・四国地方(配当 6 時間)

### 瀬戸内地域の造船業 (3~4/6)

#### ◆目標

学習指導要領では「日本の諸地域」については、①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信、⑤その他の事象を中核とした考察の仕方を基にして、主題を設けて課題を追究するなどの活動を通して、その地域的特色や地域の課題を理解すること、また、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、事象の成立条件を多面的・多角的に考察し、表現すること、などが示されている。

ここでは、中国・四国地方の地域区分について、中国・四国地方の自然環境、人口や都市・村落、農業や工業の産業、交通・通信のそれぞれを小単元の各授業で中核に置き、中国・四国地方に暮らす人々の生活・文化や地域の広がりや結び付き、人々の対応などが有機的につながっていることとともに、全国的、世界的な関係や結び付きについても関係の深い事項について多面的・多角的に考察することで、中国・四国地方の地域的特色について考える学習を設ける。

#### ◆評価規準

##### ○知識・技能

- ・中国・四国地方の自然環境を形づくる地形や気候の特色について理解し、中国地方、瀬戸内地域、四国地方のそれぞれの自然環境と人々の生活や産業との関わりについて調べまとめることができる。
- ・交通網の整備状況、地域的特色を背景にした農林水産業の状況、工業生産額と品目などの資料をまとめることで中国・四国地方の人々の営みを概観できる。

##### ○思考・判断・表現

- ・中国・四国地方の人口分布や動態に着目し、都市圏の形成と過疎化する地域の状況から、課題を設定して空間的相互依存作用、地域的特色、交通・通信の整備などの関係を多角的・多面的に考察して課題の解決を発表することができる。
- ・造船業について国内外の状況を調べ、瀬戸内地域での造船業の発展の要因について考察し、併せて、瀬戸内地域の他の産業（農林水産業、工業）との関連や他地域との流通（交通・通信）についても調べ、地域的なつながりについて考察することができる。

##### ○主体的に学習に取り組む態度

- ・中国・四国地方の特色ある自然環境や地域事象に関わる課題解決を通して、他の地域区分での同様な課題、あるいは異なる課題を設定し、追究しようとする態度をもつ。
- ・中国・四国地方で暮らしを営む住民の立場を勘案しながら、現在の自分や自分たちの暮らしと

の相違について地理的な見方・考え方を駆使して考察しようとする態度をもつ。

### ◆指導・評価計画（各時間）

#### 中国・四国地方 指導計画例（6時間）

時数	主な学習内容	学習目標	評価規準の例
1	<p>1 中国・四国地方をながめて</p> <p>自然環境の異なる地域 二つの山地には含まれた地域 交通・通信網の整備で変わる地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中国・四国地方について、人口分布図や統計グラフなどの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。</li> <li>● 中国・四国地方の地域的特色を理解するために、「中国・四国地方では、なぜ交通・通信網が重要な役割を果たしているのでしょうか」という探究課題を立て、見通しをもって主体的に追究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然環境の異なる三つの地域、盛んな農業、人々の生活や産業を変えた交通・通信網の整備、瀬戸内に集中する人口などの特色を理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>● 交通・通信を中核とした考察の仕方に基づいて設定した探究課題の答えを予測し、見通しをもって主体的に追究していこうとしている。</li> </ul>
2	<p>2 交通網の整備と人や物の移動の変化</p> <p>地方内で深まるつながり 地方をこえて広がるつながり ストロー現象</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中国・四国地方の交通網の整備について、地図、写真、統計などの具体的な資料を通して、理解する。</li> <li>● 中国・四国地方の交通網の発展による地域の影響について、利点と課題の両面から考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高速道路や橋が整備されたことにより、中国・四国地方内の結び付きや、他地方との結び付きが深まったことを理解している。</li> <li>● 交通網の整備を、移動時間の短縮やストロー現象などと関連付けて考察している。</li> </ul>
3	<p>3 交通網が支える産業とその変化</p> <p>瀬戸内の都市の歴史 海で結ばれた工業地域 全国に出荷される農水産物</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中国・四国地方の人口が瀬戸内の県に集中していることに着目し、その歴史的・地理的背景について理解する。</li> <li>● 中国・四国地方の産業が交通網の発達とともに成長してきたことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人口が集中する瀬戸内の都市の多くが交通の拠点であった城下町を起源としたことを理解している。</li> <li>● 海上輸送に適した瀬戸内海、橋や高速道路の開通によって工業や農業が発達してきたことを捉えている。</li> </ul>
4	<p>◎ 日本や世界の海運を支える瀬戸内地域の造船業</p> <p>産業を中核とした考察</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本の造船業の多くがなぜ瀬戸内地域に集中し発達したのかについて考える。</li> <li>● 日本や世界の海を駆ける船をつくる造船業について概観する。</li> <li>● 日本における海運の重要性について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 瀬戸内地域に造船業が発達してきた地理的、歴史的要因や、他の産業との関係、国際的な状況などについて話し合い、考察することができる。</li> <li>● 海洋国家日本の海運の重要性と今後の造船業の未来について根拠を示して考えることができる。</li> </ul>

5	<p><b>4 活用される交通・通信網</b></p> <p>町おこし・村おこし 橋で変わる島の暮らし インターネットで変わる山間地の暮らし 世界から地域に來訪，地域から世界に発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中国・四国地方の市町村別人口増減率の地図に着目し，過疎地域の分布の特色を理解する。</li> <li>● 過疎地域が行っている町おこし・村おこしの成果と課題について，特色ある観光資源や交通・通信網の活用などの視点から考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 過疎地域が山間部や瀬戸内海の島々の多くに分布していることをその原因や対策とともに理解している。</li> <li>● 過疎地域の対策について，交通・通信網の整備と関連付けて考察し，表現している。</li> </ul>
6	<p><b>■基礎・基本のまとめ 中国・四国地方をふり返ろう</b></p> <p><b>■まとめの活動「地域サミット」の参加者になって持続可能な地域像を考えよう</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 交通・通信を中核とした考察の仕方を取り上げた中国・四国地方の地域的特色とそこで生ずる課題を「まとめの活動」を通して振り返り，これらを理解する。</li> <li>● 中国・四国地方の交通・通信の成立条件を，地域の広がりや地域内の結び付き，人々の対応などに着目して，中国・四国地方で交通・通信網が重要な役割を果たしている理由を多面的・多角的に考察する。</li> <li>● よりよい社会の実現を視野に，中国・四国地方の学習内容を振り返って探究課題を主体的に追究する。</li> </ul>	<p>○交通・通信を中核とする考察の仕方を基に，学んできた中国・四国地方の地域的特色やそこで生ずる課題を図にまとめて振り返り，理解している。</p> <p>○中国・四国地方で，交通・通信網が重要な役割を果たしている理由を多面的・多角的に考察し，その過程や結果を生かして，「地域サミットの参加者になって持続可能な地域像を考える」，という形で具体的に表現している。</p> <p>○単元冒頭に立てた予測をはじめとする自らの学習を振り返りながら，粘り強く考察することを通して主体的に探究課題を追究し，社会に関わろうという態度を示している。</p>

※東京書籍 令和3年度用『新しい社会 地理』年間指導計画作成資料 より

◆本時指導案 瀬戸内地域の造船業 (3~4/6)

過程	○学習課題・活動 ・学習内容	◎資料 ◆指導上の留意点
<p>導入</p> <p>5分</p>	<p>○中国・四国地方の工業について、小学校での学習やこれまでに接した情報などから特色やイメージを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中国・四国地方では特に、瀬戸内地域の広い範囲に工業が盛んな場所がある。</li> <li>人口が集中している瀬戸内地域で工業が盛んである。</li> <li>瀬戸内地域の工業では石油化学コンビナートが多いことを小学校で学んだ。</li> <li>瀬戸内海を行き来する船や海運が工業を支えているイメージがある。</li> </ul> <p>* (復習) 小学校で学習した瀬戸内地域で石油化学コンビナートが盛んになった理由は？</p> <p>○石油化学コンビナートの発展とともに、以前から瀬戸内地域で発展し、現在も世界的に一定の生産量をあげている工業が瀬戸内地域に集まっています。どんな工業か予想してください。</p> <p>* 「国内造船所の地域分布」(日本全図に記された点●だけの地図) を提示して、●の箇所はどんなモノ(工業製品)が造られているか予想してみる。</p>	<p>◎小学校の教科書ページなど(石油化学コンビナート)</p> <p>◎石油化学コンビナートの全国の分布図</p> <p>◎全国の各工業地帯・地域の各種製品生産額比率</p> <p>◆瀬戸内地域の自然、地形のイメージをベースに小学校での学習を喚起させる程度に。</p> <p>◎国内造船所の地域分布</p> <p>◆海運への意識喚起</p>
<p>展開</p> <p>開</p> <p>25分</p>	<p>○DVD「暮らしを支える日本の海運」を視聴</p> <p>学習課題 どうして瀬戸内地域に造船所が集中して発展してきたのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「国内造船所の地域分布」で国内の造船所を確認</li> <li>国内の造船所は瀬戸内地域と西九州地域に集中している。</li> </ul> <p>【グループ活動】 ①10分 ②15分</p> <p>①4~5人でのグループ(8グループA~H班:同じテーマで2つのグループ)を編成し、各グループで(1)から(4)の課題を担当する者を決める。(1人1課題5人グループの場合は2人が同じ課題になるが各自で課題を追究する)</p> <p>②担当した各自の課題について資料を参考に学んだことをグループ内で学び合いながらワークシートにまとめる。</p> <p>○資料を参考に①各自が担当した各課題を追究、②追究した各自の課題についてグループで学び合い、ワークシートにまとめる。</p> <p>(1)日本の造船業はどのような状況(国内・海外)にあるのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(ヒント)世界の建造船の竣工推移や造船業の現状(日本とライバル国の推移)は？</li> <li>(ヒント)造船業の特色や課題、雇用状況(造船業での関連産業や造船業で働く人たちの状況)</li> </ul>	<p>◎DVD ダイジェスト版 約6分</p> <p>◎日本主要造船所の分布(国土交通省) 資料1</p> <p>◆新型コロナウイルス感染予防に配慮してグループの配置を考える。</p> <p>◆(1)~(4)をグループ内で分担。ヒントを中心に考える。</p> <p>◆造船業から瀬戸内地域の特色について考えさせる。</p> <p>◆ワークシートでの振り返りと学び合いを促す。</p> <p>◆各グループの進行状況を確認しながら机間指導</p> <p>◎造船業の現状(国土交通省) 資料2</p> <p>◎世界の造船業の概況(国土交通省) 資料3</p> <p>◎世界の新造船竣工量の推移(2020年9月)(日本造船工業会) 資料4</p>

<p>(2) 瀬戸内地域に造船所が集中した歴史的要因はあるのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古代～江戸時代の瀬戸内海航路</li> <li>(ヒント) 瀬戸内海を航行していた各時代の特色を示す船や航路は何？</li> <li>・ 江戸末期・明治時代～第2次世界大戦の造船の歴史</li> <li>(ヒント) 日本の近代化で工業の発達に造船が貢献したといわれるのはなぜ？</li> <li>・ 第2次世界大戦後～現在の造船業の発達</li> <li>(ヒント) 日本の造船業が世界1位になったのはいつ頃でその理由は？</li> </ul> <p>(3) 瀬戸内地域に造船所が集中した地理的要因はあるのだろうか？</p> <p>(ヒント) 造船所はどのような場所に造られるのだろうか？</p> <p>(ヒント) 造船に必要な原料や材料、そして機械や設備にはどんなものがあるか？</p> <p>(4) 中国・四国地方の農林水産業や他の工業との関係はあるのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (ヒント) 中国・四国から全国や海外へ出荷する農林水産物や工業製品で、海上輸送の方が陸上や航空を使うよりも有利な産物、製品にはどんなものがあるか？</li> <li>・ (ヒント) 石油化学コンビナートの発達と造船業の発達にはどんな関係があるだろうか？</li> </ul> <p>(例)</p> <p>(1) 造船業の現況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の造船業は世界的に重要な位置を占めているが、中国、韓国との厳しい競争がある。</li> <li>・ 造船業は機械や鉄鋼、化学、情報など多くの関連した産業が集まる工業である。造船業が盛んになれば地域の産業全体も活発化するが、逆に衰退すれば、他の産業も衰退してしまう。</li> <li>・ 人件費の高騰から日本でのモノづくりが海外に移転していく傾向は造船にもみられる。</li> <li>・ 造船会社の合併や海外との共同生産などで生産を維持しようと頑張っている。</li> </ul> <p>(2) 歴史的要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昔から海運業が発達。いくつもの航路として栄えた。(古代/平安/鎌倉/室町/江戸 各時代で活躍した海運)</li> <li>・ 大宰府と奈良・京都、遣唐使船、勘合貿易航路、朝鮮通信使 廻船航路</li> <li>・ 明治時代以降第2次世界大戦まで、海軍の造船、軍事基地として発展してきた。現在は？</li> <li>・ 第2次大戦後、日本が高度経済成長期には石油化学コンビナートが発展 (産業・経済的背景)</li> </ul> <p>(3) 地理的要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沿岸部に入り江が多く、浅い海は干拓しやすく広い地形を得やすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 瀬戸内海航路の歴史的な変遷 遣唐使船、勘合貿易、村上水軍、朱印船、朝鮮通信使</li> <li>◎ 明治時代以降の海運の発展史</li> <li>◎ 造船業とは(海の仕事.com) <a href="http://www.uminoshigoto.com/make/ship/building_industry.html">http://www.uminoshigoto.com/make/ship/building_industry.html</a></li> <li>◎ 瀬戸内地域の港湾面積や瀬戸内海の潮流</li> <li>◎ 瀬戸内地域の港湾の整備</li> <li>◎ 都道府県別農産物産出額(中国・四国地方)</li> <li>◎ 中国・四国地方の農産物、水産物、工業製品</li> </ul> <p>(1) 海洋国家日本にとって、海上交通の重要性と海上交通を支える造船業の役割を意識させたい。</p> <p>(2) 瀬戸内海航路の歴史的な変遷と役割を学ばせたい。海上交通の歴史的な発展にとって瀬戸内地域の海運の果たした役割を意識させたい。</p> <p>(3) 瀬戸内地域の地形や瀬戸内海の海洋としての特色から造船工業が発展した要因に気付かせ、考えさせたい。</p>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内海であるために、波は穏やかで潮流を利用した航行</li> <li>・多くの鉄や造船ドックで使う巨大な機械など原料や材料、機械を運んだり、保管したりする港が必要</li> </ul> <p>(4) 中国四国地方の産業（農林水産業、工業）や暮らしとの関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸内地域は離島や沿岸部に暮らす人が多く、食料や生活の糧、工業の原材料や製品の運搬に海上交通を利用している。</li> <li>・農産物や畜産などによっては RORO 船を活用するなどし、地域内や国内の他地域に出荷するにはコストの面から海上交通を利用する。</li> <li>・造船業は様々な工業との関連があるので、瀬戸内地域の雇用や経済活動に影響を及ぼす。(内航海運)</li> <li>・工業においても原材料の運搬 製品の搬出→大量・重工製品の国内外への運搬</li> </ul>	<p>(4) 瀬戸内地域の内航海運の役割から、海上交通の特色やメリット、デメリットなどについて考えさせたい。</p> <p>また、造船業の発展が地域の経済や暮らしに影響を与えることについて考えさせたい。</p>
<p>まとめ 20分</p>	<p>○発表会</p> <p><b>学習課題</b> どうして瀬戸内地域に造船所が集中して発展してきたのだろうか？</p> <p>各グループの代表が1つの課題について2分以内で発表する。同じ課題について2つのグループが発表し、各自は発表を参考に自身のワークシートをまとめる。</p> <p>発表課題 【Aは(1)、B(1)、C(2)、D(2)、E(3)、F(3)、G(4)、H(4)】</p> <p>本時の授業を振り返り、学習課題について、疑問点やもっと知りたいことを確認する。</p>	<p>◆発表を聞きながら各自のワークシートを整理させる。</p> <p>◆発表後はグループ内で再確認させる。</p> <p>◆時間があれば、今治造船株式会社の「2分でわかる IMAZO Movie」を視聴させる(2分)。</p> <p><a href="https://www.imazo.co.jp/rec/">https://www.imazo.co.jp/rec/</a></p>

# 「瀬戸内地域の造船業」 ワークシート

( ) 組 氏名 \_\_\_\_\_

## 1 どうして瀬戸内地域に造船所が集中して発展してきたのだろうか？

次の4つの点とそれぞれのヒントから考えたことをグループでまとめてみよう

### (1) 日本の造船業はどのような状況（国内・国外）にあるのだろうか？

- ・（ヒント）世界の建造船の竣工推移や造船業の現状（日本とライバル国の推移）は？
- ・（ヒント）造船業の特色や課題雇用状況（造船業での関連産業や造船業で働く人たちの状況）は？

○

○

○

○

### (2) 瀬戸内地域に造船所が集中した歴史的要因はあるのだろうか？

- ・（ヒント）各時代の特色を示す船や航路は何？ 古代～江戸時代の瀬戸内海航路
- ・（ヒント）日本の近代化で工業の発達に造船は貢献したか？明治時代～第2次大戦の造船の歴史
- ・（ヒント）日本の造船業が世界1位になったのはいつ頃でその理由は？

○

○

○

○

### (3) 瀬戸内地域に造船所が集中した地理的要因はあるのだろうか？

- ・（ヒント）造船所はどのような場所に作られるのだろうか？
- ・（ヒント）造船に必要な原料や材料、そして機械や設備にはどんなものがあるか？

○

○

○

○

### (4) 中国・四国地方の農林水産業や他の工業との関係はあるのだろうか？

- ・（ヒント）中国・四国から全国や国外へ出荷する農林水産物や工業製品で、海上輸送の方が陸上や航空を使うよりも有利な産物、製品にはどんなものがあるか？
- ・（ヒント）石油化学コンビナートの発達と造船業の発達にはどんな関係があるだろうか？

○

○

○

○

## 2 本時の授業では造船業から中国・四国地方の瀬戸内地域について学習しましたが、授業に関わって自身が学んだこと、疑問に思ったこと、もっと学びたいことについて書いてください。

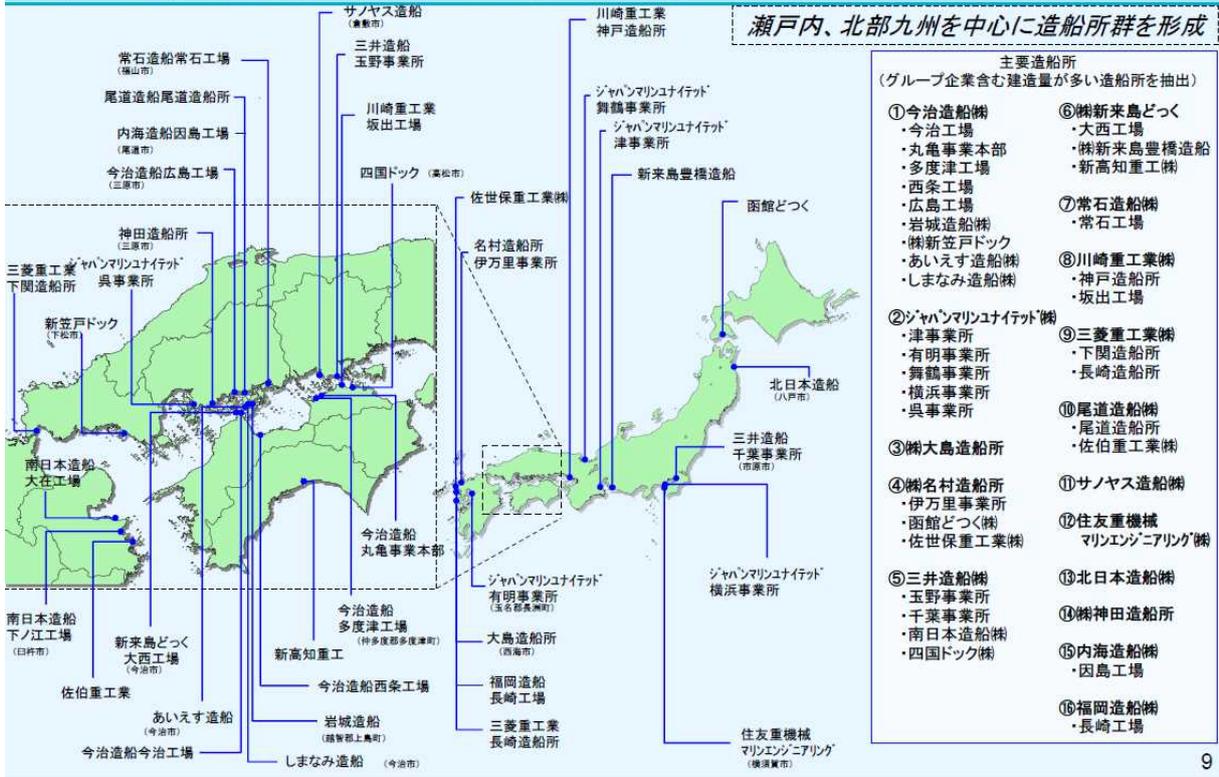
---

---

---

資料 1 日本主要造船所の分布

日本主要造船所の分布（16社 38事業所）



国土交通省 海事局

交通政策審議会 海事分科会 海事イノベーション部会

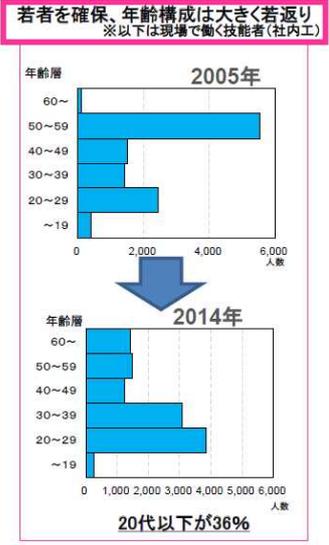
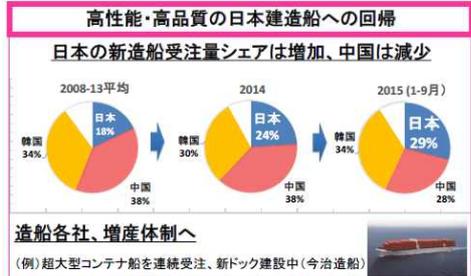
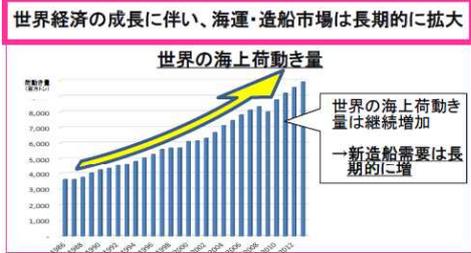
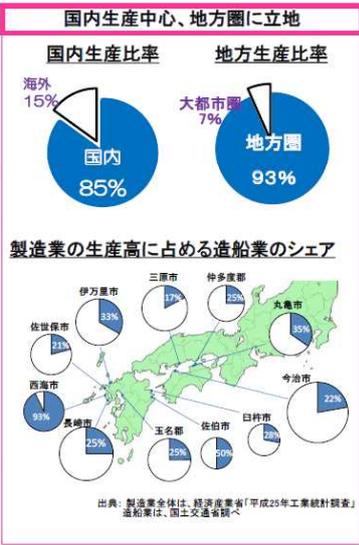
[http://www.mlit.go.jp/maritime/maritime\\_tk5\\_000039.html](http://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_tk5_000039.html)

平成 28 年 2 月 第 1 回海事イノベーション部会 資料 2 「造船業の現状」

<http://www.mlit.go.jp/common/001118262.pdf>

# 日本造船業の概況

- 国内に生産拠点を維持し、**地域の経済・雇用を支える**（船用工業と合わせて12.5万人、売上3.2兆円、国産化率約9割）。
- 輸出比率90%、世界のマーケットで**中国・韓国と競争**（近年のシェアは世界3位、約2割で推移）。
- 国際基準化と並行した省エネ技術開発に成功。アベノミクスによる円高是正により、**2013年以降、受注が急速に増加**（2015年1～9月期のシェアは29%で中国を抜いて2位）。



国土交通省 海事局  
交通政策審議会 海事分科会 海事イノベーション部会

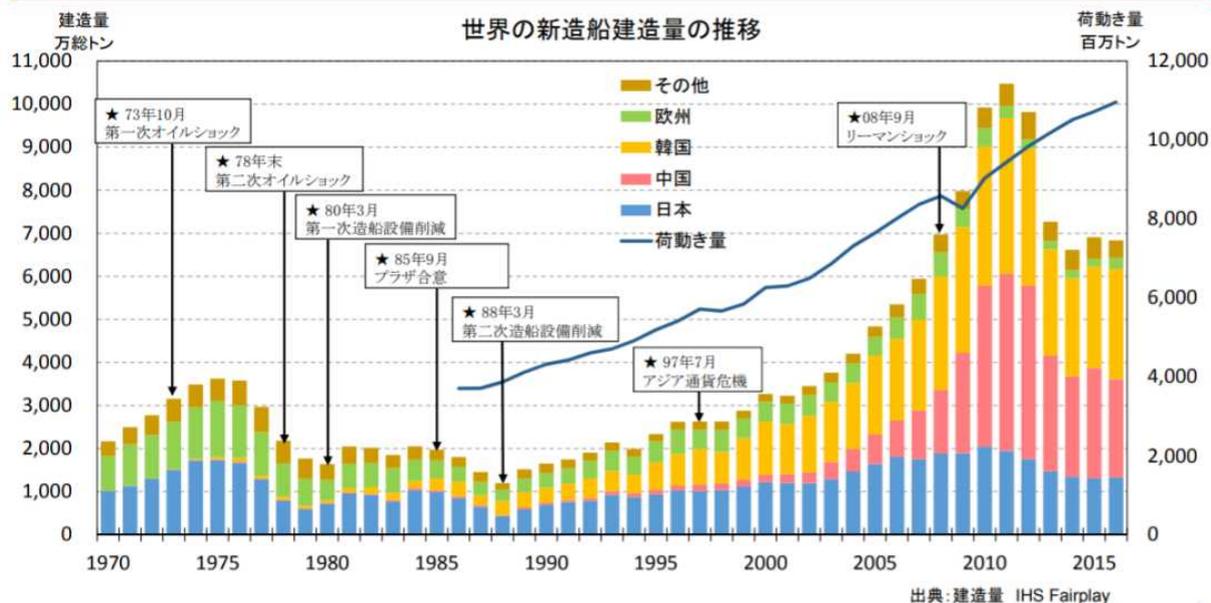
[http://www.mlit.go.jp/maritime/maritime\\_tk5\\_000039.html](http://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_tk5_000039.html)

平成 28 年 2 月 第 1 回海事イノベーション部会 資料 2 「造船業の現状」

<http://www.mlit.go.jp/common/001118262.pdf>

## 世界の荷動き量と新造船建造量の推移

- 世界の海上荷動き量は、リーマンショック(2008年秋)の翌年に、前年比で減少したものの、基本的には世界経済成長率と連動して増加。
- 世界の造船受注量がリーマンショック以降に激減したため、建造(竣工)量はリーマンショック前の受注船がほぼ竣工した2011年をピークに大きく落ち込んだ。



国土交通省 海事局

交通政策審議会 海事分科会 海事イノベーション部会

[http://www.mlit.go.jp/maritime/maritime\\_tk5\\_000039.html](http://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_tk5_000039.html)

平成 29 年 12 月 第 4 回海事イノベーション部会 資料 2-1 「造船市場の現状」

<http://www.mlit.go.jp/common/001215818.pdf>

資料 4 世界の新造船竣工量の推移（2020年9月）

2. 世界の新造船竣工量の推移

	年	日本		韓国		中国		欧州		その他		世界合計	
		隻数	万総トン	隻数	万総トン	隻数	万総トン	隻数	万総トン	隻数	万総トン	隻数	万総トン
竣工量	2010	580	2,022	526	3,170	1,413	3,644	254	312	975	496	3,748	9,643
	2011	593	1,937	572	3,585	1,425	3,961	185	144	895	558	3,670	10,185
	2012	586	1,743	474	3,158	1,448	3,900	188	134	1,000	622	3,696	9,558
	2013	540	1,459	386	2,450	1,073	2,590	159	111	931	437	3,089	7,048
	2014	522	1,342	343	2,259	914	2,271	166	132	1,018	458	2,963	6,462
	2015	520	1,301	358	2,327	949	2,516	152	99	891	514	2,870	6,757
	2016	514	1,331	359	2,503	824	2,235	165	154	681	419	2,543	6,642
	2017	493	1,307	290	2,243	798	2,383	187	161	656	482	2,424	6,577
	2018	458	1,453	211	1,432	811	2,315	190	187	730	396	2,400	5,783
	2019	493	1,622	239	2,174	892	2,322	198	212	750	304	2,572	6,633
2020 1-6月	287	861	113	935	318	1,091	68	46	278	108	1,064	3,041	

注) 1. IHS Markit "World Fleet Statistics" による (2020年1-6月は"World Shipbuilding Statistics")

2. 対象は100総トン以上の船舶

日本造船工業会 統計データ

<https://www.sajn.or.jp/data>

造船関係資料 2020年9月 [PDF版-一般向け]

[https://www.sajn.or.jp/files/view/articles\\_doc/src/684f5de274618ec12674da70a38391ee.pdf](https://www.sajn.or.jp/files/view/articles_doc/src/684f5de274618ec12674da70a38391ee.pdf)